

Q： 当日集まらなくて困ることはないのですか。

A： 事前に参加者を把握するようなことはしていませんので、その時間になってみなければ分かりません。しかし、無理に集めようとすれば、保護者の方に負担をかけることとなります。そうすれば、次に続かなくなると思います。無理せずに、集まった人数で実施します。

Q： 学年によって集まりにばらつきはあつたりするのですか。

A： 学年が上がるにつれ、参加する保護者の数は減ってきます。「高学年は、難しい」というイメージがあるようです。また、低学年の子どもたちは、保護者が来てくれることがうれしいので、「来て、来て」と言うそうです。

Q： 先生方と保護者との関係が心配なのですが。

A： 普通の授業であれば、子どもがつまづいている場面や教師が厳しく指導しなければならない場面も予想されます。子どもがつまづいている姿は、保護者の方に見せたくありませんし、保護者の方も見たくないでしょう。また、教師が保護者に遠慮して指導できないことがあるかもしれません。互いに気を遣うようであれば、一緒にやらない方がいいと思うかもしれません。

三内小学校では、「基礎基本の時間」に限って行っています。その時間は、それまでに、十分に学習してきた計算や漢字を練習し習熟を図る時間です。ですから、児童の速さに違いがありますが、つまづく場面や厳しく指導するような場面にはなりません。

これまでのみちのり

もともとは「基礎基本の時間」に、教頭や教務主任などが各学級に入り、丸つけを行っていました。しかし、子どもたちが次から次へと並び、待っている時間が長くなり、十分に練習できず困っていました。

ある時、「基礎基本の時間」の取組を保護者に理解していただくための学習公開日を設定しました。その時に、たまたま参加していた保護者の方々に、「丸つけをやってみませんか。」と気軽に声をかけたところ、「丸つけぐらいならいいですよ。」ということでスタートしました。

保護者の中には、解答をもとに丸をつけるだけでいいという気軽さとともに、自分の子どもが今どのようなことに取り組んでいるのか知りたい、参観日や行事でないときの子どもの様子を知りたいという気持ちもあったのでしょう。学校だよりで呼びかけたところ、参加してくれるようになりました。もともと、「いつでも自由に見に来てください。」と保護者に呼びかけていたのですが、きっかけがないとなかなか来られるものではないです。ちょうどいい、きっかけになったのかも知れません。

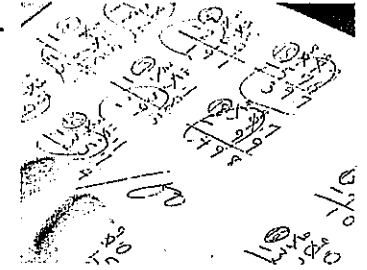
その後、学年だよりで呼びかけるようになり、現在のようになりしました。もともと、いろいろな形で保護者の皆さんが学校に協力していたという基盤もあり、その延長で取り組んでくれたのではないかと思います。

三内小学校では、このような取組を始めて5年になります。子どもたちは「基礎基本の時間」になれば誰かがくるといのは当たり前になっています。自然な形で進んでいます。

この活動を行って 成果・課題、そしてこれから

参加している保護者の声を紹介します。

- ・「始めたきっかけは、自分の子が学校でちゃんとできているか心配で、確かめたくて来ました。あまりできていなかったので、『お母さんが行くから頑張っつね。』っていったら、それからよくできるようになりました。」
- ・「子どもたちに『頑張っつね。』と声をかけるとみんな喜んでくれるのでうれしいです。役に立っている感じがします。」
- ・「家でも宿題を見ているが、学校に来てこういう活動をする、今学校でどんなことに取り組んでいるか知ることができます。」
- ・「『ああ、他の子も、ここが…』とつまづきが分かります。家庭で子どもに教えるときに参考になります。」
- ・「初めて参加しましたが、子どもたちとは顔見知りだったので気兼ねなくできます。初めてでも大丈夫でした。」



真土校長先生にお話を伺いました。

丸つけだけということであっても教室に入ると、参加されている保護者は子どものいろいろな様子に分かると思います。いい意味で先生方がどれだけ苦労しているか、少しでも伝わると思います。子どもの普段の様子を知ってもらうことで、学校の味方になってくれるのではないかと思います。今、いろいろな問題が起きていますが、普段の子供たちの様子を見ている保護者がいれば、『そう言うけれどね、先生方はこうして…』という声が出てくれるのではないのでしょうか。

また、保護者の方が教室に入るといことで、先生方はちょうどいいくらいの緊張感を持つようです。

今後も、たくさんの保護者の皆さんに参加してほしいと思っています。